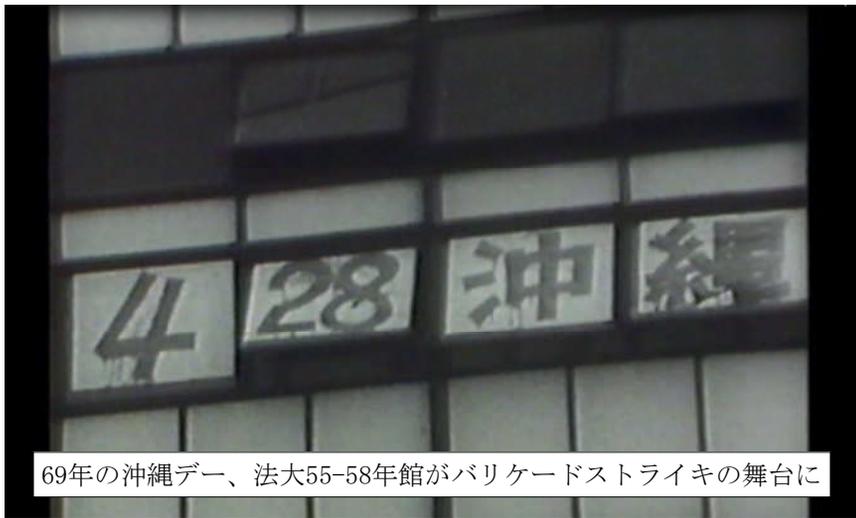


○戦争のための基地はどこにもいない！

沖縄の大学生が訴えているように、基地とは戦争＝人殺しの訓練場以外のなにものでもありません。朝鮮戦争、ヴェトナム戦争、そしてイラク戦争——1952年の4月28日に施行されたサンフランシスコ講和条約によって「基地の島」としてのありかたを強制されてきた沖縄の現実こそが「日米安保体制」の実体そのものです。辺野古への新たな基地建設は「負担軽減」のためでもなんでもなく、政府の進める「戦争のできる国」づくりの核心にほかならないのです。

それゆえ、現に朝鮮半島や中国をめぐる侵略戦争が狙われるなかで辺野古への基地建設を止めることは、安倍政権の戦争国家化を阻み、東アジアを焦点とした戦争を阻止する大きな力となります。



69年の沖縄デー、法大55-58年館がバリケードストライキの舞台に

○学生・労働者の団結で基地はなくせる

戦争を許すのか、それとも戦争や基地を必要とする社会を根底から変えるのか—歴史を選択するのは安倍でも菅でも政治家でもなく、わたしたち学生と労働者です。来る4・28沖縄デーで法政大—国会を包囲する闘いを実現し、そのことを示そう！

日本の労働者・学生は敗戦以来、一貫して反戦闘争をその原点としてきました。3000人ともいわれる学生を戦地に送った法政大学では、1969年の4月28日を前に、「沖縄奪還」を掲げてバリケードストライキが闘われました。またヴェトナム戦争の渦中、沖縄では基地労働者の組合である「全軍労」牧港支部が史上初となる基地内ストライキを敢行したのです。戦争をとめる力はここにこそあります！



1973年、全軍労牧港支部の組合員が沖縄の基地内でストライキ

○国際連帯の闘いで安保・戦争国会を打ち砕こう

今年の4・28沖縄デー闘争は、安倍政権と対決し、まさに安倍首相の訪米（4月26日～5月3日）のただなかで、日米新ガイドライン策定にむけた「2+2」協議（27日）、そして日米首脳会談（28日）、安倍の米上下両院での演説（29日）を直撃する闘いとなりました。

昨年5月「辺野古新基地建設反対—戦争阻止」を掲げて再建された沖縄大学学生自治会の仲間とともに、4・28辺野古現地集会と連帯し、本土から学生の闘いをまきおこそう！

さらにこれは、韓国で4月24日「パク・クネ政権打倒」を掲げてゼネラルストライキにたちあがる労働組合の全国組織・民主労総の闘いとかたく連帯するものです。韓国でパク・クネ政権のもとで生きるために職場からたちあがる労働者、米軍基地建設に反対する人びと、徴兵制に怒りを燃やす学生に、日本の闘いを届けよう。安倍政権を倒し、安保・戦争国会を粉砕する壮大な闘いの出発点として、ともに4・28沖縄デー闘争にたちあがろう！



昨年5月19日の沖縄大学キャンパス集会

4・28沖縄デー闘争

◆日米新安保ガイドライン締結阻止！ ◆辺野古への米軍新基地建設許すな！
4月28日(火)

12:30 法政大・市ヶ谷キャンパス集合

13:30 デモ出発

16:00 新橋駅から国会議事堂へデモ（終了後、国会議事堂前で座り込み行動）